

鳥類保護委員会議事録

日時：2017年9月15日 15時30分～17時30分

場所：筑波大学 筑波キャンパス第二エリア 2D 棟 304 教室

出席者：佐藤重穂（委員長）、白木彩子（副委員長）、尾崎清明、北村 亘、呉地正行、小高信彦、須川 恒、高橋満彦、武石全慈、出口智広

1. 総会決議その後の経緯

1) 沖縄島在駐米軍北部訓練場内ヘリパッド移設計画の見直しの要望書（1999年度）東村高江区では、2014年までに2か所のヘリパッドが完成し、すでに米軍に共用されている。新たなヘリパッド建設の動きはないが、今後も情報収集に努める。

この一年間の主な動きは次の通り。

2016年9月15日 全国33番目の国立公園として「やんばる国立公園」指定される。

2016年12月22日 ヘリパッドの完成を受け、米軍北部訓練場（約7500haのうち4000ha）の過半の返還、日米正式合意される。

2017年2月1日 「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」の世界自然遺産登録に係る推薦書が、日本政府よりユネスコ世界遺産センターへ提出

2017年3月7日 全国34番目の国立公園として「奄美群島国立公園」指定される。

2017年5月17日 沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物(レッドデータおきなわ)-動物編-第3版として発刊(平成29年5月17日付け公表、ホームページ掲載) ヤンバルクイナ、サシバのランクが上がる (ENからCRへ)。

2017年10月中旬 IUCNによる世界自然遺産登録にかかる現地調査

今後は総会決議のフォローアップではなく、保全上重要な地域として当委員会で注視していく。

2) 上関原子力発電所建設計画に係る希少鳥類保護に関する要望書（2008年度）

現在、上関原発の工事は止まっている（ただし2017年7月1日から1年間の予定で、長島の建設予定地の陸上部で地質調査の一環としてボーリング調査が行われている）が、情勢の変化があり得るので、引き続き動向を注目していく。

2017年7月に上関の自然を守る会からの要請に基づき、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟の「プロジェクト未来遺産 2017」の募集に対する「瀬戸内海最後の奇跡の海—上関の自然と地域を未来につなぐ」の応募について、鳥類保護委員会から推薦状を発行した。

同会ではクラウドファンディングを利用して地元で博物館を作る運動を進めている。

2. 委員会からの要望書の提出

1) 伊豆諸島御蔵島の世界最大のオオミズナギドリ集団繁殖地の保全を求める要望書

会員の要請に基づき、2016年11月に表記の要望書を環境大臣、東京都知事、御蔵島村長の三者に宛てて提出した。要請者である会員が環境省、東京都、御蔵島村に対してそれぞれ持参して、直接、手渡した。

2017年8月に早稲田大学で開催された外来ネコ問題研究会が主催するシンポジウムでは、御蔵島の事例も含めて報告されたが、本委員会はこのシンポジウムを後援した。

2) 北海道北部地域の風力発電施設建設計画地における鳥類生息地の保全を求める要望書

会員の要請に基づき、2017年7月に表記の要望書を経済産業大臣、環境大臣、北海道知事の三者に宛てて提出した。このうち、北海道からは文書による回答があった。また、環境省環境影響評価室からは、3)の案件と併せて意見交換をしたいという連絡があり、現在、日程調整中である。

豊富町の建設予定地にはチュウヒの営巣地があるが、こうした実データがあると保全を求める根拠として主張できる。

3) 岩手県北上高地のイヌワシ生息地の保全を求める意見書

会員の要請に基づき、2017年7月に表記の要望書を経済産業大臣、環境大臣、岩手県知事の三者に宛てて提出した。

2)の案件とあわせて、環境省環境影響評価室と日程調整中。

3. 種の保存法による国内希少野生動植物種の指定について

環境省から表記について、パブリックコメントの募集があり、2017年8月に当委員会から以下の意見を提出した。

1)ヘラシギ、チュウヒ、シマアオジを指定することに賛成した。

2)オオタカの指定解除については、保護対策が行われること等の条件付きで賛成した。

4. 鳥類保護委員会の体制について

1)ホームページの整備

当面、委員長と副委員長で委員会ホームページを管理することとし、仮運営サイトを2017年1月に開設した。

<http://ornithology.jp/iinkai/hogo/Chouruihogoinkai-kari.htm>

2)委員会予算の要求

これまで学会事務局から当委員会への予算割り当てがなかったため、次年度予算に5万円の計上を要求した。

3)委員の交替

新規委員候補者：飯田知彦氏、金井裕氏、平田和彦氏（50音順）

退任希望：尾崎清明委員

次期委員の任期は2018年1月から2019年12月まで。

4)委員長・副委員長の改選

委員長は佐藤が引き続き務める。副委員長は白木が引き続き務めるのに加え、北村を加えて副委員長2名の体制とする。

5. その他の検討事項

以下の項目についてそれぞれ協議した。

- ・コウノトリの野外復帰の現状
- ・シマアオジおよびカシラダカの減少
- ・シジュウカラガン復活プロジェクト
- ・アホウドリの繁殖地の保全
- ・鳥類の保護管理に関わる問題
- ・ラムサール条約登録湿地

(鳥類保護委員長)